

## 週報①

### 広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月 ~2日	5月 ~9日	5月 ~16日	5月 ~23日	5月 ~30日	6月 ~6日	6月 ~13日	6月 ~20日	6月 ~27日	7月 ~4日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	65	137	114	22	26	43	43	35	32	39	20	24	36
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	25	52	61	16	9	12	5	13	12	23	17	12	21
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	5	3	1	1	0	2	0	2	1	1	4	4	
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	16	33	19	3	8	9	11	8	6	9	5	5	8
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	10	15	25	9	8	5	2	7	6	4	1	2	5
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	1	3	2	0	2	0	0	2	1	1	0	0
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	5	6	11	3	3	2	3	2	2	5	0	2	0

## 週報②

### 広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和3年第26週(6月28日~7月4日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7			2		2	1	2
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1							1
四類	6	E型肝炎	1					1		
		日本紅斑熱	3						2	1
		レジオネラ症	2		1			1		
五類	13	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	5					3		2
		クロイツフェルト・ヤコブ病	1				1			
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1					1		
		梅毒	6			4		1	1	
新型コロナウイルス感染症	48	新型コロナウイルス感染症	48	4	3	2	0	29	4	6

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島市、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第26週に、29件の報告があり減少傾向が続いています。一方で、東京を中心とする首都圏では、増加に転じており、感染の再拡大が強く懸念されています。リバウンドを起こさないため、感染拡大防止対策を徹底しましょう。

【参考】第41回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(令和3年6月30日)(厚生労働省)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00256.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00256.html)

2 RSウイルス感染症

定点当たり1.67人の報告があり、前週からは減少しましたが、多い状況が続いています。症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々ですが、特に生後数カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいといわれています。咳等の呼吸器症状がある人との接触を避け、おもちゃや手すりなど手の触れる部分の消毒、手洗いの励行に努めましょう。

【参考】RSウイルス感染症Q&A(厚生労働省)  
[https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs\\_qa.html](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html)



3 流行性耳下腺炎

定点当たり0.46人の報告があり、例年同時期より多い傾向です。

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
インフル	インフルエンザ	-	-	-	-		小児科	流行性耳下腺炎	11	0.46	0.23		
小児科	咽頭結膜熱	9	0.38	0.66			小児科	RSウイルス感染症	40	1.67	0.36		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.25	2.22				急性出血性結膜炎	-	-	0.15		
	感染性胃腸炎	61	2.54	4.77			眼科	流行性角結膜炎	2	0.25	0.75		
	水痘	1	0.04	0.34				細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	1	0.04	4.00			基幹	無菌性髄膜炎	-	-	-		
	伝染性紅斑	1	0.04	0.41				マイコプラズマ肺炎	-	-	0.14		
	突発性発しん	8	0.33	0.38				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	5	0.21	1.17				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.11		

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	↔	↔	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	52	50歳代、80歳代
4	E型肝炎	1	5	30歳代
4	レジオネラ症	1	20	60歳代
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	6	60歳代・2人、80歳代・1人
5	梅毒	1	30	20歳代
5	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	11	80歳代